

1. 実況上の着目点

- ① 四国の南に低気圧があって、東進。低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、西～東日本では1時間に5mm前後の降水を解析。
- ② 500hPa 5280m以下の-33℃以下の寒気を伴う寒冷渦に対応する低気圧がアムール川中流付近にあって、東進。
- ③ オホーツク海に低気圧があって、東進。
- ④ ①や③の低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなっており、西日本と北日本では、やや強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、12日夜には東海道沖に進む。低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる所がある。西～東日本太平洋側では12日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ② 1項②の寒冷渦は、13日夜には北日本に進む。寒冷渦に対応する低気圧が12日夜までに沿海州付近に新たに発生し、発達しながら13日夜にはサハリン付近に進む。低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となる所がある。また、13日朝には日本の東で前線を伴った別の低気圧が発生し、発達しながら北東進する。これらの低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。東～北日本では、13日にかけて落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に、14日にかけて強風や風雪、高波に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。特に、北日本では13～14日は、暴風雪となるおそれがあるので留意。
- ③ 500hPa5760m付近の強風帯に対応して、前線が12日朝までに華中で顕在化し、12日夜には奄美地方付近、13～14日は日本の南にのびる。前線に向かって高気圧縁辺から850hPa θ_e 321K以上の下層暖湿気が流入し大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では13～14日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。
- ④ 14日は、オホーツク海へ進む低気圧の影響で北日本は下層寒気移流場となり、850hPa-9～-12℃の寒気が流入し、降雪が強まり大雪となる所がある。北日本では14日は、大雪や着雪、なだれに注意。
- ⑤ 沿海州からオホーツク海へ進む2項②の低気圧に向かって、下層暖気が流入するため、西日本の積雪の多い所では14日にかけて、東～北日本の積雪の多い所では13日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：九州南部100mm。② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北4、関東・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。